令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人山本能楽堂
施設名	山本能楽堂
内定額	2,951　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
普-01	ストリートライブ能	4月5日,11月21日、3月3日、3月27日、3月28日	中大江公園、芝川ビル。御堂筋ギャラリー、なんば広場
普-02	アートによる能案内	令和8年2月28日	山本能楽堂
普-03	高校DEうたい隊	令和8年3月12日	学校法人興國高校
普-04	伝統芸能塾　まっちゃまちサロンPLUS	実施せず	実施せず
普-05	能活	実施せず	実施せず
普-06	出前能	令和8年3月3日	ゆめパラティース

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	26	31	21
	公演事業	15	20	12
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
	人材養成事業	1	1	1
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
	普及啓発事業	10	10	8
	（内、本助成対象事業本数）	10	10	4
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください			

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	313	333	316
	ホール名：能舞台　座席数：227	58	78	61
	ホール名：敷舞台　座席数：20	120	120	120
	ホール名：1階楽屋　座席数：20	120	120	120
	ホール名：ライブラリー　座席数：20	15	15	15
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	4,520	6,950	7,280
	公演事業	3,200	4,800	5,200
	人材養成事業	120	150	80
	普及啓発事業	1,200	2,000	2,000
	共生社会事業			
	その他　内容：			
	貸館事業入場者・参加者数	3,000	3,600	4,700
	その他　内容：記入してください			
	計	7,520	10,550	11,980
開館日数		350	355	355
施設の利用可能日数 （＝365－（保守点検日数+休館日数））				
施設の利用日数				
施設の利用率(%) （＝利用日数/利用可能日数）		0.0%	0.0%	0.0%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	18	36	2,202				18			
	共催・提携公演（※2）	2	2	320				2			
	貸館公演	73	77	9,660	1	8	7	54	3		
	計	93	115	12,182							
令和6年度	主催公演（※1）	20	43	3,370				20			
	共催・提携公演（※2）	3	3	530				3			
	貸館公演	70	81	9,060	1	3	3	58	5		
	計	93	127	12,960							
令和7年度	主催公演（※1）	30						30			
	共催・提携公演（※2）	1				1					
	貸館公演	61				3	1	48	2	2	5
	計	92	0	0							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人山本能楽堂
施設名	山本能楽堂
内定額	2,951　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業			
普及啓発事業	①全事業の参加者数 ②新規来場者率（普-04, 05） ③再訪意欲 ④観客・参加者の満足度	①1,860 人 ②アンケートで「山本能楽堂への来場は今回がはじめて」の回答者が 60%以上 ③アンケートで「また山本能楽堂に来たい」「また山本能楽堂に来てほしい」の回答者が 80%以上 ④アンケートで「大変満足」「満足」の回答者が 80%以上	①　2200 人 ②　68% ③　97% ④　97%
共生社会事業			

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	

普及啓発事業	
自己評価	当能楽堂が位置する大阪に所縁の深い固有の文化としての能楽の魅力を、地域の人々に開き、子供から高校生、お年寄り、外国人まで、幅広い層の方々に向けて、対象者に向けた、特別で、多彩な企画でその魅力を発信し、関心や理解を深めることができた。ストリートライブ能は、地域のイベントと連携し、より効果的に事業を実施することができた。アートによる能案内は、文楽のチラシや美術のデザインを手がけた新進気鋭の谷原菜摘子氏を講師に迎え、万博で人気を博したヨルダン館のヨルダンの砂も画材として取り入れながら、アートの力で子供たちの五感を開き、能の「創造性」を触発し、能への興味を促すことができた。高校 DE うたい隊の事業では、生徒の興味・関心を引き出し、生徒たちが能の謡の魅力を楽しみ、その結果、本年 7 月に来阪するハーバード大学の現役学生による「Dim＆Tonics」との共演につながった。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
・多言語対応公演の実施回数 ・主催公演全体に対する多言語対応公演の割合 ・海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体との連携数	・多言語対応公演を 10 公演以上実施する。 ・主催公演全体に対する多言語対応公演の割合を 50%以上にする。 ・海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体との連携数 を 3 以上実施する。	・56 公演 ・85% ・ 3

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	本年、大阪・関西万博が開催され、山本能楽堂はホストタウンに位置する能楽堂として、海外からの多くの観光客や在日外国人に能をはじめとする伝統芸能の魅力を伝えるため、80%以上の主催公演を外国語対応公演として実施した。伝統芸能、特に能楽の公演では、英語による資料を配することはあまり行われていないが、ほぼすべての公演で英語の資料を配布したが、単に資料を配布するだけでなく、司会や解説、質疑応答も英語で実施し、日本人も外国人も一緒に伝統芸能を楽しめる環境整備を行った。さらに、英語だけではなく、フランス語、中国語、韓国語に特化した公演も先駆的な試みとして実施した。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
①連携する関係機関、大学、施設数 ②連携する小中高校の数 ③参加する小中高校生の数	①連携機関等 10 以上、地域施設のチラシ配架 30 カ所以上 ②10 校以上 ③250 人以上	①　10,　32 ②　10 ③　380

（※4）・（※5）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	山本能楽堂は「地域に開かれた能楽堂」をめざし、これまでにも様々な地域との連携を行ってきた。特に山本能楽堂が位置する大阪市中央区は、大阪の中でも長い歴史と文化を誇る大阪の中心ともいえる地域であるが、中央区役所と包括連携協定を結び、今年度はなお一層、地域との結びつきを強固にした。 それとともに、地元小学校の能楽堂体験なども積極的に受け入れ、2025 大阪関西万博で、主催事業として実施した、水の浄化をテーマに環境問題について一緒に考える「いのちの能　水の輪」公演には、地元の小学生と地元のインターナショナルスクールの子供たち約 700 人が出演する公演として、万博を代表するエキスポホールで実施し、子供たちに伝統芸能の継承と環境保全のレガシーを伝統芸能の力で伝えた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①アウトリーチ事業の実施数	①7 回（ストリート能 5 回、高校ＤＥうたい隊 1 回、出前能 1 回）	３７

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	能の魅力を次代へと継承していくために、山本能楽堂は多彩なアウトリーチ活動に力を注いでいるが、今年度は、大阪市内で 11 回実施したことに加え、万博会場でも 30 回公演を実施し、多様な形態の多彩なプログラムで幅広い観客や参加者に「現代に生きる魅力的な芸能」としての能の魅力を訴求した。公演には、アフリカ、チベット、韓国など外国人も出演者として参加し、スタッフも外国人や学生など多彩な人々が参加し、多彩な参画者により、芸術の魅力をより広く伝えることができた。経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐためすべて無料の公演として実施し、実施会場も多くの会場でバリアフリー対応で実施した。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
本年、大阪・関西万博が開催されたが、山本能楽堂はホストタウンに位置するため、開幕前から万博に訪れる海外からの観光客に向けて、数多くの事業に取り組んできた。万博の初日、オープニングを飾るイベントにも、万博プロデューサーの中島さち子氏が率いるクラゲバンドとともに、同じくプロデューサーの落合陽一氏の映像とのコラボレーションにより、能楽の魅力を発信する機会を得た。その後も、大阪府市による「大阪ウィーク」にも春・夏・秋連続で参加、ジャパンウィークでも東寺や仁和寺、延暦寺など日本が誇る寺社とともに参加、さらに、クラゲ館はもとより、ドイツパビリオン、イタリアパビリオン等海外パビリオンとも連携し、能の公演を行い、能楽の魅力を世界に向けて発信した。さらに、能だけでなく、上方舞、上方落語、上方講談、浪曲など大阪に伝わる伝統芸能の魅力を世界の人々に伝えるため、英語対応で、24 公演を実施し、多彩な芸能の魅力を世界の人々に発信した。今後は、万博で得た気持ちのいいネットワークをさらに拡大し、世界の人々に、日本が誇る伝統芸能の魅力を伝えていきたい。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	つとめているが、さらなる努力が必要である。	つとめているが、不十分である。
目標(値)（※2）	前年比10%の増額	会員数を前年比10%の増加を目指す
実績(値)	前年比8%の増額	前年比7%の増加
団体の自己評価	大阪･関西万博が開催されたこともあり、増額することができた。海外からの寄附を頂くことができた。	OTAを通して、海外からの誘客が少しづつではあるが増加している。

価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場･音楽堂等との事業連携や協力･支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	連携はおこなっているが、それによる効果的で効率的な事業運営にはつながっていない	該当せず
目標(値)（※2）	実質的な事業連携が行えるようつとめる。	該当せず
実績(値)	3	該当せず
団体の自己評価	大阪にある3つの能楽堂が連携し、万博に向けて能の魅力を発信することができた。	該当せず

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	(オ) 芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	(カ) 長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	配置されている	配置されている
目標(値)（※2）	1人	1人
実績(値)	1人	1人
団体の自己評価	能楽師でもある代表理事が統括し事業を実施している。	外部監査を置き、長期的視点にたち劇場運営を行っている。

評価の観点	(キ) 専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	(ク) 職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	運営体制の整備につとめている。	小規模な劇場のため、役職が細かく分類されていない。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	能楽は特殊な芸能であるため、専門人材の確保がむずかしいが、育成につとめ、運営体制の整備につとめている。	役職は細かく分類されていないが、公演事業ごとに専任性をとり、担当者が変わっても事業を継続できるよう環境整備を行っている。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	大学からのインターンシップの受け入れを含め、若年層の雇用に努めるようにしている。	女性職員が 80%以上を占める。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	アルバイトも含めると、20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、70 代のすべての年代の人材が共に働いている。	女性職員が 80%以上を占めるため、アルバイトでは男性の方も雇用するように心がけている。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	仕事と育児・介護等の両立ができるように取り組んでいるが、現状では該当者がいない。	情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスを順守するようつとめている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	今後、仕事と育児・介護等の両立を行う該当者が合わられた場合は、両立ができるよう推進する。	研修はおこなっていないが、専門性を持つ業者から話を聞く機会を設けている。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	ハラスメント防止対策の掲示を行っている。	社会保険労務士の指導の下、アーティストやスタッフと適正な契約書を結ぶようにつとめている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等を防止するようつとめている。	社会保険労務士と契約を結び、指導の下、アーティストやスタッフと適正な契約書を結ぶようにつとめている。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
山本能楽堂は「文化芸術の継承・創造・発信の場として、伝統芸能をより良い未来社会に活かす」ことをミッションとして、能楽堂を「特別な人のための場所」ではなく「様々な人が行き交う芸術創造の場所」と位置付けた「開かれた能楽堂」を目指して活動をおこなっている。将来のビジョンとしてはそれをさらに発展させ、人が集うだけでなく、集った多様な人々によって新しい芸術活動の創造がおこなわれ、それを地域に還元し、文化の力で地域を活性化させたいと考えている。地域社会における文化芸術の拠点として、地域のより良い未来に寄与しながら共生・共存する「みんなの能楽堂」としての在り方を目指している。 今年度、大阪・関西万博が開催され、山本能楽堂はホストタウンに位置する伝統芸能の劇場として、多くの外国人を受けいれることができるよう環境整備を行い、インバウンド向けの多様で多彩な事業を展開することができた。外国人の満足度は概ね、90%を超え、高い満足度を引き出すとともに、その先にある日本文化の奥深さへの興味・関心へと誘うことができた。当能楽堂が目指す理想の劇場の姿は、日本人も外国人も共に同じ伝統芸能の舞台を鑑賞し、同じように楽しみ、学ぶことができる環境整備である。国や宗教、年齢や性別を超え、誰もが同時に日本が世界に誇る伝統芸能を楽しむことができることを目標に日々活動を続けている。 同時に、地域に開かれた能楽堂として、老若男女を問わず、あらゆる世代の人々、障害の有無にかかわらず、誰もが芸術文化の楽しさを享受できることを目標としている。 今年度は、普及事業として、4つの事業を実施したが、小学生から、高校生、高齢者の人々、そして一般市民の人々も含む、様々な年代、環境の方に能の魅力を知り、楽しんで頂く機会を創出することができた。ただ、本来能楽堂での実施を計画していた、大阪に伝わる上方伝統芸能について学んで頂くための講座を実施することができなかった。 今後も、能をはじめとする伝統芸能の普及・啓発につとめ、様々な魅力あふれる公演を実施することで、次代へと能楽、および上方伝統芸能を継承できるよう取り組んでいきたい。

備考
・これまでの上方伝統芸能の普及・啓発事業の実績が認められ、4月25日から7月20日まで大阪市中之島美術館で開催される、日本を代表する関西ゆかりの現代美術家である森村泰昌氏、ヤノベケンジ氏、やなぎみわ氏の「驚異の部屋の私たち　消滅せよ」のラストを飾る「消滅美術館」の展示に、伝統芸能の演者がコラボレーションする公演を約200回、プロデュースすることにつながった。 ・ヨーロッパ三大演劇祭の中で最も勢いのあるルーマニアのシビウ国際演劇祭から、2026年度の「ウォーク　オブ　ザ　フェイム」を受賞することになった。日本からは18代中村勘三郎、串田和美、野田秀樹、笈田ヨシ、佐々木蔵之介に続き6個目の星である。劇場としては世界初になる。